青少年ふくしま

福島県青少年育成県民会議
少年の主張特集号
令和５年１１月１６日

第４５回少年の主張福島県大会

○日時　９月２１日(木)　　○場所　新地町文化交流センター

「少年の主張」は、少子高齢化、国際化、情報化が急速に進み、環境が目まぐるしく変化する現代社会において、次代を担う子どもたちには、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していける、健やかな成長が求められています。そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などとともに、物事を論理的に考える力や、自らの主張を正しく伝え、理解してもらう力などを身につけることが大切です。「少年の主張」は、中学生の真摯な思いを発表する機会を提供することで、少年の健全育成に対する大人の理解と協力を深めていくことをねらいとして実施しています。この取組は、国際児童年（１９７９年）を契機にはじめられ、福島県大会は、今回で４５回目を迎えます。毎年多くの中学生が参加していますが、今年度も県内９，７０５人（１６７校）の中学生から応募がありました。

最優秀賞を受賞された
押川千晏（ちはる）さん

最優秀賞	須賀川市立小塩江中学校	３年	押川　千晏	今日から私が宣伝部長
優秀賞	二本松市立二本松第三中学校	３年	阿部　琉生	環境問題対策の矛盾を考える
	二本松市立安達中学校	３年	佐々木　泉	学ぶということ
	喜多方市立山都中学校	３年	氷室　心都	自分にしか掴めない「幸せ」を
	白河市立大信中学校	３年	塚野　颯美	ふるさとを守りたい
	北塩原村立第一中学校	３年	中川　珀那	助け合う世界を目指して ～小さなことから始めよう～
優良賞	相馬市立中村第二中学校	２年	竹島　灯	「人間」としてのプライド
	郡山市立安積中学校	２年	白井　温	平和への使命感
	西郷村立川谷中学校	２年	名和　美波	「楽」はどのくらいがいいか
	塙町立塙中学校	３年	藤田　日和	周りと違う自分を認める
	福島県立会津学鳳中学校	３年	遠藤　百恵	嘘をつくその先で
	桑折町立醸芳中学校	３年	斉藤　莉子	平和のためにできること
	南会津町立南会津中学校	３年	星　楓	勇気を出して
	福島大学附属中学校	３年	杉山　颯	私たちの目
	相馬市立中村第二中学校	３年	愛澤　心優	余さない、残さないを目標に
	新地町立尚英中学校	３年	佐藤　聡悟	来たるべき社会に向けて

☆　各市町村で開催されている「少年の主張大会」の取組をご紹介します！

第３９回石川町少年の主張大会

〇日時　６月１０日(土)
〇場所　石川町文教福祉総合施設(モトガッコ)

石川町の少年の主張は、今年で３９回目。長い歴史を誇る伝統の大会となっています。特筆すべきことは、町内の小学生（４名）・中学生（３名）・高校生（２名）と幅広い年齢層による主張大会を開催し、石川町の青少年の育成に寄与されていることです。

９名の発表は、挨拶、人権、ＳＤＧｓ、防災、郷土愛、環境問題、国際紛争、日本語の美しさ、夢と挑戦など、実に多種多様な課題に向き合っていました。また、疑問や課題などを相手に問うだけでなく、自分自身に問いかける中で答えを見つけ、実体験に基づく主張は説得力がありました。また、それぞれの課題を解決するために、行動し始めていることに、我々大人こそがんばらなければならないと強く感じた少年の主張大会でした。

（発表者）

三森　悠生	石　川　小　学　校	６年	あいさつの習慣
鈴木　杏奈	石　川　小　学　校	６年	不登校について
三瓶　愛加	石　川　小　学　校	６年	「ＳＤＧｓ」を全て達成するために
佐藤　愛菜	野 木 沢 小 学 校	６年	地震から命を守るために
小松　果恋	石　川　中　学　校	３年	過ごしやすい未来につなげるため
鈴木　華恋	石　川　中　学　校	３年	もったいないをなくす
寺嶋　唯人	石 川 義 塾 中 学 校	２年	戦争について
草野　涼夏	学校法人石川高等学校	２年	未来へと続く日本語
小野　禄太	県 立 石 川 高 等 学 校	３年	私の十七年間－夢を叶えるには

第５１回いわき北地区弁論大会

〇日時　７月１３日(木)
〇場所　いわき市立小川中学校

いわき市では、北地区と南地区に分かれて実施している「弁論大会」の上位入賞者を福島県の少年の主張大会に推薦しています。「弁論大会」の歴史は古く、いわきＢＢＳ会の主催で「社会を明るくする運動」として開催されており今年度で５１回目です。

弁論主題は、家庭や学校、社会との関わりや体験を通して、日頃考えていることや提言で、次のいずれかの内容に関するものとしています。

⑴ 社会を明るくするために、日頃思うこと
⑵ 社会を明るくするために、中学生はどうあるべきか
⑶ 青少年の非行防止のために思うこと

発表者は、弁士と呼ばれます。自分なりに考えたことを発表する姿は、弁士と呼ばれるにふさわしい堂々とした弁論ぶりで素晴らしかったです。

今回は、北地区を取材しましたが、大会会場は、いわき市立小川中学校。全校生徒に大会の様子をリモートで中継し、教室で視聴できるようにしていました。また、ＦＭいわきの協力を得て、上位８人の弁論の様子を後日放送するための準備をするなど、広く「弁論大会」の様子を知ってもらう取組をしていました。

（いわき北地区入賞者）

最優秀（市長杯）	山崎　凜子	豊間中学校	３年	知ること　気づくこと
優秀（議長杯）	永山　万結	赤井中学校	３年	明るい社会への第一歩
優秀	遠藤　陽菜	小川中学校	３年	絆のキセキ
優秀	菊田　美月	好間中学校	３年	共助の心あふれる社会に
保護司会長賞	佐藤　百々花	平第三中学校	３年	あいさつ
更生保護女性会長賞	青木　詩栞	内郷第一中学校	３年	人から地域へ、地域から社会へ
桐友会長賞	三保　陽依	中央台南中学校	３年	つながりを大切に
アゼリアＢＢＳ会長賞	草野　愛夢里	三和中学校	２年	幸せで楽しい明日にするために

第２０回須賀川市少年の主張大会

〇日時　８月２日(水)
〇場所　市民交流センターtette たいまつホール

須賀川市の昨年の応募数は２１３点でしたが、今年度は、７１９点と大幅に増加しました。少年の主張の教育的意義が高く評価されたことが、積極的な応募につながったものと思われます。

代表の生徒１０名の発表は、家族、学校、地域、現代社会の問題、そして自分自身など、中学生の視点で鋭く捉えたものばかりでした。特に、ヤングケアラーやＬＧＢＴＱ等の問題については、深く考えさせられるものでした。

また、須賀川市の少年の主張大会は、青少年健全育成推進大会と併せて開催されており、当日は、須賀川市出身の俳優・相樂孝仁さんを講師に迎え、「青少年に向ける壮年（中年）の主張」と題し、社会の変化の激しい時代における夢の見つけ方、キャリアの描き方等について講演がありました。

（入賞者）

最優秀賞	細田　一葉	西袋中学校	３年	叶えたい夢
優秀賞	四柳　遼大	岩瀬中学校	３年	心に「思いやり」というフィルターを
	柳沼　結音	第一中学校	３年	私らしく
	遠藤　陽菜	稲田学園	９年	つながる地域と笑顔
	押川　千晏	小塩江中学校	３年	今日から私が宣伝部長
優良賞	松本　ひなた	仁井田中学校	３年	ありのまま
	宗形　椛音	大東中学校	２年	規格外野菜について
	鈴木　巧磨	長沼中学校	３年	野球から得たもの
	伊藤　蒼史	第二中学校	３年	野球界を盛り上げるぞ!!
	岩谷　芽依	第三中学校	３年	ヤングケアラーの立場になって

第３０回西郷村少年の主張大会

〇日時　８月１９日(土)
〇場所　西郷村商工会館

西郷村では、小・中学生が日常生活の中で感じたことや日頃考えていることを広く社会に訴えることで、青少年自身がより深く社会に目を向ける機会の提供を目的に、平成６年度より開催しており今回で３０回目を迎えました。特筆すべきことは、村内の県立西郷支援学校の生徒にも参加いただき、「特別賞」を設けていることです。村内一体となり、青少年の健全育成に尽力していることがうかがえます。

主張内容は、自分自身の内面や家族に関することをはじめとして、西郷村を想う郷土愛、動物愛など多方面にわたるテーマがあり、西郷村の小・中学生の関心の拡がりや情報収集量の多さに感心いたしました。

なお、審査員及び講評を、福島県青少年育成県民会議　青少年育成専門指導員の紺野宗作が務めました。

（小学校の部）

最優秀賞	高木　侑河	熊倉小学校	６年	誰もが健康に暮らせる「まちづくり」
優秀賞	渡部　蒼空	小田倉小学校	６年	人間と動物
〃	伊東　莉來	米小学校	６年	なりたい自分に向かって～家族の支え～
優良賞	大槻　楓牙	羽太小学校	６年	２つの夢
〃	有賀　千夏	川谷小学校	５年	夢に向かって

（中学校の部）

最優秀賞	髙木　しほ	西郷第二中学校	３年	個を認めあう
優秀賞	名和　美波	川谷中学校	２年	「楽」はどのくらいがいいか
〃	鈴木　心陽	西郷第一中学校	２年	私たちは世界を変える
優良賞	志田　莉子	西郷第二中学校	３年	価値観
〃	會田　翼	西郷第一中学校	３年	成長

（特別発表の部）

特別賞	若松あかり	西郷支援学校	中学３年	めざせ黒板消しマスター

第四十五回少年の主張福島県大会　　最優秀賞

今日から私が宣伝部長

須賀川市立小塩江中学校　三年　押川　千晏

特設駅伝部部長、厚生委員会委員長、生徒会副会長。これは前期生徒会総会のとき、私の名札に書いてあった肩書です。それもそのはず、私が通う学校は、全校生が十九人。三年生はたったの五人だけなのです。

須賀川市立小塩江中学校は、宇津峰山のふもとにある、自然がいっぱいの学校です。一年生から三年生まで、ほとんどが幼なじみで、お互いの家族の顔まで思い浮かべることができます。小塩江以外の地区から通っている人もいますが、いつの間にか、幼なじみの輪に入ってしまうのです。けんかする気も消えてしまうような、本当にのどかなところです。

そんな小塩江中学校は、間違いなく、須賀川で一番行事が多い学校です。皆さんは全校で田植えや稲刈りをしたことがありますか？小塩江では小学生や地域のお年寄りと一緒に、毎年お米を作るのです。それだけではありません。なんと、みんなでお餅をついてお腹いっぱい食べる、収穫祭までやってしまいます。私たちの時間割は、行事がない週の方が珍しいくらいです。

部活動だって盛んです。私が入っていた卓球部は、七人の部員全員で団体を組み、中体連で五年ぶりに県中大会まで勝ち進みました。特設の陸上部と駅伝部、合唱部にはほぼ全校生が入っています。夏休みは、走って、歌って、常設部の練習をして、毎日大忙しです。一人ひとりが大事な戦力だから、みんなが一生懸命頑張れるのです。

もうお分かりのように、私たちは小塩江と小塩江中学校が大好きです。でも大好きだからこそ、私たちにはとても大きな心配事があります。

私たちの多くが通った小塩江幼稚園は、今年の三月に二人の園児を送り出して、休園になりました。小塩江小学校と中学校に新しく入ってくる子どもは、もういません。つまり、私たちの小塩江地区は、近い将来、子どもが一人もいない場所になってしまうかもしれないのです。

数年前、このことに気づいた私の先輩たちは、この大問題に立ち向かうため、ある素敵な取り組みを始めました。その名も「小塩江プロジェクト」！　ずばり、小塩江のよさを須賀川中に広め、小塩江中学校の仲間になってもらおうというものです。

それからというもの、私たちは、教室や学校を飛び出して学ぶ行事を増やし始めました。先ほど話した田んぼの学習はもちろん、おうちの人たちと一緒に楽しむ球技大会に、地域の方も出し物をしてくれる文化祭。須賀川支援学校との交流会。ボランティア活動にも、全校で取り組んでいます。もちろん、たまには「忙しいな…」と思う瞬間もあるけれど、「小塩江プロジェクト」と聞くと、みんな目の色が変わって気合が入るのです。

小塩江プロジェクト。そう。三年生の中でも一番引っ込み思案な私が、今日ここに立とうと決めたのも、このプロジェクトにどうしてもひと役買いたかったからなのです。

私は、みんなが家族みたいにとっても仲良しなこの学校を、なくしたくないのです。毎朝嬉しそうに声をかけてくれるおじいちゃん・おばあちゃんを、寂しくさせたくないのです。全員が主人公になって頑張れる小塩江中学校を、なくしたくないのです。

私はあと半年もしないうちに、小塩江中学校を卒業します。小塩江に高校はないから、卒業したら、この場所を離れることも決まっています。しかし…いや、だからこそ、私は小塩江が好きだと伝え続けます。

「小塩江中学校をなくさないで」なんて言いません。私たちが、そして私が、みんなが小塩江に来たくなるようにしてみせます。最初の宣伝先は、今日来てくれた皆さんです！

大好き、小塩江！　おいでよ、小塩江！

今日から小塩江中学校宣伝部長　押川千晏

「少年の主張」審査雑感

主張作文の内容は、家族、地域、学校生活、政治や国際問題などの時事的、今日的な課題など、実に多岐にわたっており、自分自身の体験を通して気づいたり学んだりしたことを自分の言葉で表現する作文はいつもながら感動しています。特に本年は、ＳＤＧｓやジェンダーや多様性といった現代社会で注目されていることをテーマにしている主張作文が目立ちました。中学生の関心の拡がりや情報収集量の多さに感心するばかりです。

さて、主張作文は、各市町村の青少年育成市町村民会議での選考を経て、各市町村の中学校数に応じて３点から６点を推薦していただいております。今年も、各市町村から２０２点もの推薦をいただきました。この中から、１次審査会、２次審査会を経て、最終的に１６点が県大会への選出となりますが、本当にとても狭き門です。しかし、県大会に選出されなかった主張作文も、県大会に選出された作文に遜色ない素晴らしい作品も数多くあり、多くの人に読んでいただけないのが残念です。

推薦いただいた主張作文を読ませていただき、作文を構成する上で工夫して欲しいことが２つありますので述べさせていただきます。その１つは、「論旨のブレ」です。テーマとは別な内容も欲張って主張してしまう作文が数多くありました。考えているうちに様々なことを主張したくなってしまったと思われますが、主張することの一貫性がなくなり、最終的に何が一番主張したかったのかよくわからなくなってしまう作文がありました。着眼点も素晴らしく、新鮮な主張なのに惜しいと感じました。２つは、「一般性・社会性のある主張」です。自分の体験をもとに気づいたことを鋭い感性で論じる内容は素晴らしいと感じる作文も多かったです。しかし、個人の体験談に終始してしまい、主張したいこと、提言したいことは何なのかがはっきりしない作文がありました。体験から学んだことを、広く一般に当てはめて考え主張したいことを明確にしていくことで、より説得力がある主張作文になると思いました。

主張作文の「自分はこう思う」「私はこういう社会を目指したい」と力強く主張している作文を読ませていただき、先行き不透明な厳しい今の世の中においても、未来を切り開こうというたくましさを感じることができ頼もしく思いました。また、今は、多くの情報をインターネットで手に入れることができる時代となりました。あふれる情報に惑わされることなく、物事を自分でしっかり判断することが大切であることを、中学生の主張作文から改めて再認識いたしました。そういった意味でも、少年の主張大会の教育的意義は大きいと感じています。主張作文を書いた経験は将来、間違いなく役に立つと思います。今後の中学生の健闘を期待しています。

福島県青少年育成県民会議　青少年育成専門指導員　紺野宗作

【福島県青少年育成県民会議連絡・問い合わせ先】
住所　〒960－8153　福島市黒岩字田部屋５３－５(福島県青少年会館内)
TEL　０２４－５４６－０００２　　FAX　０２４－５４６－８３１２
Mail　f-kenminkaigi@fukushima-youth.com
HP アドレス　http://www.fukushima-youth.com/